

(50)フォルクスワーゲン自動車のディーゼル排ガス違反事件

9月18日、米環境保護局(EPA)は、独フォルクスワーゲン(VW)と傘下の独アウディの自動車で大気浄化法違反の疑いが見つかったと発表した。対象となるのは2008年以降、米国で販売されたディーゼル車5車種、計48万2千台という。EPAによるとVWなどは排ガスに関する試験をクリアするため、違法なソフトウェアを使っていたという。EPAの検査時には、排出基準に適合するようにソフトウェアが機能するが、実走行時には、燃料効率を上げるために、排出基準を満たすことができず、実際の窒素酸化物(NOx)の排出量が基準値と比べ最大40倍に達する可能性があることが明らかにされた。

2015年の上半期に世界最大の販売量を達成したVWによる排出基準の巧妙な違反は、世界の自動車業界に衝撃を与えている。

実際、米メディアによると大気浄化法違反の場合、1台あたり最大3万7500ドルの制裁金が科される可能性があるという。単純計算で最大で180億ドル(2兆1600億円)となる。そして、ドイツ国内では、2006年当時にVWの技術者が不正に関与した事実が明らかになり、さらに、2011年頃からドイツ政府も不正の事実を把握していたという。環境意識の高いドイツの消費者から激しい批判を浴びるようになった。

VWは累積1100万台の該当車を2016年からリコールすることを発表し、そのための費用や顧客や株主に対する損害賠償を合わせると、4~8兆円の費用負担が発生すると予測され、VWの倒産さえ噂されるようになってきた。雇用者の10%が自動車産業に従事しているといわれるドイツ経済、そして、VWの工場がある欧州地域や中国等に及ぼす影響も懸念されるようになった。

近年、EU諸国では、クリーンディーゼル車の増加と裏腹に、大気汚染の影響が深刻になり、フランスのパリでは、ナンバープレート制を利用した自動車利用規制の実験が行われ、2020年にはディーゼル車を廃止しようという動きが出ていた。燃費効率を上げるために、環境規制を欺き、ドイツ国民等の環境意識を裏切った今回のVWの行動が意味することは、なんであったのか。環境規制が自動車産業の動向を左右する大きな事件として、今後の推移を注意深く見守っていきたい。

以上